

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）



要因分析（現状・データから導かれる分析結果）

- 健康寿命の延伸のためには、一次予防である生活習慣病の予防、二次予防の疾病の早期発見早期治療が重要な要素である。東成区民の健康指標は、概ね大阪市平均といえるものの、がん検診等の受診率は低い。このような状況が健康寿命の延伸の妨げになっている要因の大きなものと考えられる。
- 感染症予防の基本である手洗いは、予防効果が高く重要である。しかし、正しい手洗い方法の実践はなかなか困難である。その洗い残しが感染症流行の大きな要因の一つといえる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- 正しい知識等の普及啓発等により、健康づくりの機運を高め、がん検診等の受診者増に繋げ、生活習慣病の予防並びに改善、疾病の早期発見早期治療を目指す必要がある。
- 感染症予防には、抵抗力が弱く集団発生となりやすい年齢層を中心に、予防に関する啓発や災害時の蔓延を見据えた取り組みを推進する必要がある。

平成 26 年度東成区運営方針

主な取り組みの課題と改善策（平成 26 年度中間振り返り）

- 主な取り組み名 住民とともに考える健康づくり
 - 健康づくり講演会（参加型事業同時開催）275 名、地域での健康講座 5 回 105 名、健康づくり推進部会 2 回。
 - ⇒ 課題：健康寿命の延伸・壮年期死亡の減少のためには、壮年期層の参加増が必要である。
 - ⇒ 改善策：健康づくり推進部会構成員との協働活動並びに各地域活動協議会との連携、協働活動により、一層の参加者増の推進をはかる。
- 主な取り組み名 感染症予防：草の根活動
 - 普及啓発活動：5 回 151 名（幼稚園 1 回 100 名含む）、参加型の教室：7 回 197 名
 - ⇒ 課題：基本的な感染症対策として、正しい手洗い方法が自主的に継続して取り組まれていることが大切である。
 - ⇒ 改善策：感染症予防教室開催場所において、CD、チラシ等の活用により、自主的に実施できるよう努める。

平成 27 年度東成区運営方針策定の方向性

区役所が考える方向性

【めざす将来像】（概ね 10～20 年を念頭に設定）
 区民一人ひとりが、自主的に健康づくりや感染症予防に取り組むことにより、健康寿命の延伸を目指す。

【めざす状態】（概ね 3～5 年を念頭に設定）
 区民の健康づくりの気運が高まり、食生活の改善や運動習慣等の健やかな生活習慣を取り入れ、がん検診等の受診機会を利用するなどにより、生活習慣病の予防・改善、早期発見・早期治療に繋がる。

- 関係団体や地域住民とともに考え、区民や地域が主体となり要望にあった健康づくりの取り組みを協働で開催することにより、参加者増を図り、健康づくりへの意識の向上や態度変容へと繋げる。
- 住み慣れた地域で健やかに安心して暮らせるよう、医師会等の関係機関と連携を強化し取り組んでいく。
- 区民や地域が主体となれる気運を醸成する。

【めざす状態】（概ね 3～5 年を念頭に設定）
 区民一人ひとりが感染症予防に対する意識をもち、正しい予防・対応がとれる。

- 感染症対策の基本である手洗いについて、地域に出向き関係施設や関係団体等と協働して、集団発生を生じやすい乳幼児・高齢者並びにその関係者を対象に、正しい知識の普及活動を行う。

平成 27 年度東成区運営方針策定の方向性

区民のみなさまが考える方向性
 （メモ欄としてご自由にお使い下さい。）